星の輝く海

福田正夫＊詩
福田達夫＊絵

星の輝く海

福田正夫

略歴

福田正夫

1893年生まれ。医者堀川好才の五男。17才の時教師福田誠信の養子となる。1913年神奈川県立師範学校（横浜国大）卒業。詩集『農民の言葉』『世界の魂』『船出の歌』ほか。詩劇、小説も多数出版。

福田達夫

1929年生まれ。福田正夫三男、日本画家。1950年東京美術学校（芸大）卒業。毎年個展など開く。小学校図工教師。

福田美鈴

1934年生まれ。福田正夫四女、詩人。1957年国学院大学国文科卒業。著書『海の抱擁』『父福田正夫』など。

ジュニア・ポエム双書

星の輝く海

著者――福田正夫
編者――福田美鈴©
発行者――柴崎芳夫
発行所――教育出版センター
〒170東京都豊島区北大塚三―二九―二
電話　〇三（九一七）八九三〇
振替　東京〇―一四六一二
〈落丁・乱丁本はお取り替え致します〉

8092―1328―1475

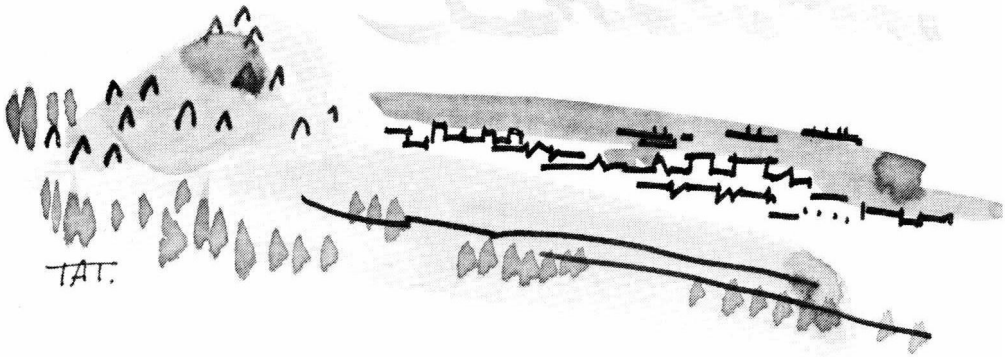
星の輝く海

もくじ

星の輝く海

月光と波 6
星の輝く海 8
麦の秋 11
月と星 12
月うすき空に 14
光りの子供 16
画 17
沈黙 18
ぬれる地面 19
森のねぐら 20
樹の陰 22
春 24
草の芽 25

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com



夢の唄

新鮮 26
明るい雨 27
船出 28
海の唄 32
夢の唄 34
赤きばら 38
母をたずねる唄 40
別れの唄 42
風の唄 44
散る花の唄 50
花咲く恋の唄 52
高い空 54

太陽と春

魂の帆の歌 58
大空への思慕 60
空の歌 62
太陽と春 64
小さい戦士 67
毎日してくれる名も知らぬ子供達の礼儀に 68
農夫と自然 70
夜うたった詩・三月二日 72
詩二篇 75
あとがき 78

星の輝(かがや)く海

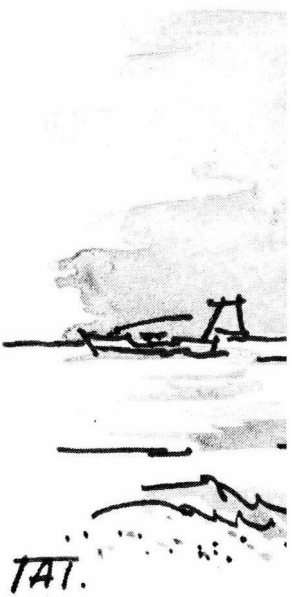
月光と波

*月いで
波光る夜の海に、
しずかに*うかべる舟一つ。

漕ぎ行く愛の潮の、
光りうすれて影黒く消え、
雲晴れて波にのる沖に行く舟、
ああ、さみしき一つの小舟。

月と波と、
美しい微光*にとけて、
風さみしく吹き、波悲しく鳴る、
*されど舟は行くかすかに遠く、
いつか消え果て*る。

*月いで＝月が出て　*うかべる＝浮かんでいる　*微光＝かすかな光　*されど＝けれど
*消え果てる＝消えてしまう



星の輝く海

*煙い昏れる果て、
*今宵も悲しみの空に、
星が輝いた

おお、海洋よ、海洋よ、
*鬱としてこもった広い水の野原よ、
私はこの心を捧げてしまう、
そして泣いてしまう。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

ああ、*いつとも知らぬ遠い昔から、
その*鬱々とした風景に悩んで、
かぎりも知らぬ波にそよいでいる海洋！
私の心の底に深く澄んでいる海洋！

私はこの夕、
星がうつる水と、
雲が沈む波と、
光りが消える海とを見る、
そしてうたう。

呟くような歌が、
丘の上から海に落ちて行く、
私の胸からふるえ落ちる魂の叫び！
星よ、水よ、かぎり知らぬ海よ、
お前達だけが私の心を知ってくれる！

＊煙い昏れる果て＝煙っている夕暮れの海の果て　＊今宵＝今夜　＊鬱としてこもった＝暗くふさぎこんだ　＊いつとも知らぬ＝いつからかもわからない　＊鬱々とした＝暗く重苦しい

麦の秋

君よ、思わないか、
風に揺(ゆ)れる五月の麦、
その音が*豊熟(ほうじゅく)のこころを語ると。

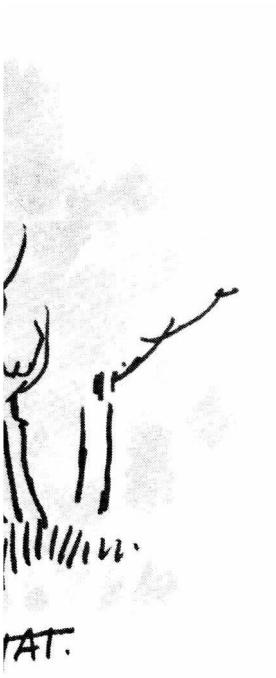
日は輝(かがや)き燃える、
麦の秋――おお、力強く充実(じゅうじつ)した生の輝(かがや)きよ。

*豊熟(ほうじゅく)＝さく物が豊かに実ること

月と星

月が一つ、
星がたくさん。

晩秋の空に、
自然は何か相談してるようだ。



月うすき空に

夜自転車を走らせて家に帰る。

月うすき空の、
*嘆(なげ)きに煙(けむ)る地に、
*辷(すべ)り行く車。

ああ、愛をのせて、
行くか、心の里の住(すみ)かに、
走れ、夜を行く愛の車。

*嘆(なげ)きに煙(けむ)る地に＝嘆(なげ)くようにもやが立っている地に　*辷(すべ)り行く＝すべるように走って行く

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com